

今月の御教え

ご無礼である、お粗末であるというが、商売人がはかりの目盛りをごまかしたり、人の目をくらましたり、農業する人が山や田畑の境目を勝手に動かしたり、水や食べ物をおろそかにしたり、自分の勤めをおろそかにしたりするほど無礼はない。人の目をくらましてとくしをようとすることから、損をして倒れる。境目を欲張るから、その田畑を放さなければならぬようになる。物を粗末にするから食べられないようになる。勤めをなおざりにするから仕事は逃げ、働けないようになる。みな、無礼粗末の心がもとでそうなるのである。

……「天地は語る」第八十四条……

解説

お道では「ご無礼、お粗末のなきように」ということがよく言われますが、金光大神様は、ここでその具体例を挙げてご理解下さっています。「商売で客の目をごまかして得をしよ」としたり、山や田畑の持ち主が勝手に境を動かして自分の領域を広げたりと我欲を出すから、先で損をして倒れたり、田畑を手放さなければならぬようになる。天地の御恵みである水や食物を粗末にするから食べられなくなったり、勤めをおろそかにするから仕事がなくなくなる」と、大変分かりやすくみ教え下さっています。不行状は「めぐり」となって、又、善行は「余慶」として子孫に累積されていきます。教祖様は幼いころからの実家や養家の実意な家庭環境、そして良き学問の師を通じてこれらの「人の道・人倫」をしっかりと身につけられた事がうかがえます。そして加えて一心の神信心により天地の道理に適った生き方、即ち「天地の御働きとお恵みへの感謝」に終始する生き方につながったのであります。